

原田

藤原氏系種友按てりる家傳二河より

寛永先祖河多倍十九代孫春種筑前

國伊豆郡原田村に住せしより子孫

原田とありて家號し其後裔原田

次師大支種直系相國清盛に仕(太宰

少貳とありて平氏没落に先因人等

ありて鎌倉よりりる教年村のち

石大板頼朝種直の弓馬は術は長せる
を惜み赦免のりしは今更な故郷
帰らんこと証あるし是も一遂は三河國
久木村の閑居しり種友は去れり後
裔ありして同國足助の居候もかくて
足助の城主鈴木頼俊も重直と一族
原田小右衛門種久、藤瀬九郎左衛門
某等と地を争ひ争楯も及ぶべし

種久と共に

東照宮に降魔下りたまひり援助と
こしませしに永祿四年閏三月
種久等と連名に降誓書とあるは
去りのころは足助に内々といふ
米地四百石を交まひ降弓取と
命せしる家譜元龜三年十一月廿二日三
方原に復し討死す寛永濟負とあり

なりす法名若慶より家すなり子

藤左衛門種右いね三河寛永永祿永祿

九年より按じらるゝ寛永清は六年にたゝるは十八年
時より今家清より死年と参考し

東也官は仕うまより元和元年大坂

清陣のとき清枝番をけしむ寛永清
家清

後述に國はうらみとして新恩を百

石を賜り家清其後大坂伏見より

て金銀出給の事とけり寛永
清同

八年六月七日大坂より死すといふ

七十八なり法名慶瑞より其子二席

三席種貞ハ別家を起すあり

二男藤左衛門種成いね家名は正保元

年六月大番組頭となり同二年

八月二日二條城れち清より死す

時より二十八歳なり法名宗心より嗣

をきよりして家絶家清